



小学校16校を7校に 中学校10校を7校に

若草小、藤橋小、友田小、今井小を他校に「再編」

「青梅市立学校施設のあり方審議会」は、「青梅市の地域性および特性に即した学校施設の在り方について」、来年度末までに「答申」を行う予定です。7月に行われた審議会では、今後の「再編」にむけた検討資料が示されました。その内容は、現在の26校を14校にするA案、同じく16校にするB案の2案です。

「再編案」はあくまで検討資料ではありますが、市が学校数を大幅に減らそうとしている姿勢が色濃く表れています。

例えばA・Bの両案はいずれの案でも若草小、友田小、藤橋小、今井小は他校に「再編」されることとなっています。7月時点では、全体イメージ図と、東部、南部の再編案しか示されていませんが、8月には他の地域の案も示される予定です。

小規模校のメリットにも着目を

背景には国の方針があります。その方針の中心な考え方は、「各学年に複数クラスがある」のが「望ましい教育環境である」というものです。

しかし、小規模校ならではのメリットもあり、実際に市内の小中学校において、小さい規模（1学年で数人～20数人程度）でも、「学校全体の仲がいい」、「先生と子どもの距離が近くてアットホームな雰囲気」、「勉強を丁寧に覚えてもらえる」といった声はよく聞かれます（市の調査でも同じ傾向が見られます）。

市は、国の方針にそって一面的に「再編」を進めるのではなく、青梅の教育環境はどうあるべきかについて丁寧に議論し、今後の学校配置を考えることが必要です。

市の「再編案」

東部1	現在	再編後	東部2	現在	再編後
	河辺小	河辺小		第三小	第三小
	霞台小	霞台小		新町小	新町小
	若草小			今井小	
	霞台中	霞台中		藤橋小	
	泉中	泉中		第三中	第三中
				新町中	新町中
南部	現在	再編後			
	第二小	第二小			
	友田小				
	第二中	第二中			

7月の審議会資料より作成。8月18日に開催される第12回審議会で、中央部、西部、北部の資料が示されます。



「統合ありき」ではない議論を

私は、学校数を大幅に減少させ、学校規模を大きくし、通学距離が伸びれば、「不登校」問題がさらに悪化するなど、子どもたちにとって教育環境は悪化すると思います。

「少子化」が大きな課題であることは間違いありませんが、市の予想でも今回の案が示された小学校では、2059年時点で1クラス15人程度は保たれており、むしろ理想的な教育環境と言えます。何十年も先の児童数を根拠に「この学校はなくす」と決めるのではなく、自然環境とともに「小規模校」を青梅の学校の一つの特色にしておくことを求めています。



青梅市議会議員

井上たかし

日本共産党青梅市議団

「なんでも相談」

090-8489-5260

inouetakashi99@gmail.com

「学校のトイレ新聞」も、ぜひお読みください



@inoue_9

井上たかし
公式 web

